

国際漁業学会（JIFRS）短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: mariji@nara.kindai.ac.jp

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄（トミオ）出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2013年度第1号

2013年6月4日刊

目次

- | | |
|--|-------|
| 1. 2013年度JIFRS大会の案内 | 事務局 |
| 2. 学会賞選考委員会よりお知らせ
－学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼－ | 山下 東子 |
| 3. 2012年度JIFRS YAMAMOTO PRIZEの選考過程と
受賞者について | 山下 東子 |
| 4. 小規模漁業に関するFAOワークショップに出席して | 八木 信行 |
| 5. 事務局便り | |

1. 2013年度JIFRS大会の案内

日時：2013年8月3日（土）13：15～17：30（17：45～19：30 懇親会）

4日（日）9：00～12：30（個別報告の申込数に応じて前後します）

場所：近畿大学農学部（〒631-8505 奈良市中町 3327-204）

総会・シンポジウム 新教室棟 211 教室

個別報告 新教室棟 212・216 教室

（学会賞選考委員会・編集委員会・理事会 新教室棟 216 教室）

参加費：大会 一般会員 2,000 円、一般非会員 3,000 円、学生無料

懇親会 一般 5,000 円、学生 3,000 円

※個別報告を希望される会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを添えて、6月28日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込み下さい。また、7月15日までに報告要旨（40字×25行以内）を、7月28日までに報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出して下さい。

※報告要旨集等は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ (<http://jifrs.info>) からダウンロードをお願いします。（7月20日頃に掲載します）

※懇親会へ参加される方は、7月15日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込み下さい。

■大会スケジュール

8月3日(土)

(10:00-10:20 学会賞選考委員会)

(10:20-11:35 編集委員会)

(11:45-13:00 理事会 ※各自で昼食をご用意下さい、学内のコンビニ(8:00~17:00)は営業しています)

13:15-13:20 開会挨拶

13:20-14:20 総会

14:20-14:30 休憩

14:30-17:30 シンポジウム「ウナギ資源の国際的枯渇と我が国養鰻業の展望(仮)」

座長：有路昌彦(近畿大学農学部)

17:45-19:30 懇親会

8月4日(日)

09:00-12:30 個別報告(8報の場合) ※プログラムは、7月10日頃までにホームページ上に掲載します

※8月4日(日)午後には、TEMF研究会が開催されます。詳細は、7月15日以降に、同会ホームページ(<http://temf.info>)をご参照下さい。

2. 学会賞選考委員会よりお知らせ

一学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼一

山下東子(学会賞選考委員長)

2012年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので積極的に推薦してください。賞の種類は以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員(個人)。過去1年間(2012年1月~2013年4月)の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員(個人)。本学会誌第11巻掲載論文およびIIFET2012 Proceedings掲載論文が対象となります。

募集期間：2013年6月30日(日)締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由(形式自由)をJIFRS会長(多田稔 tadacom@nifty.com)あて、Eメールにて送付してください。

選考方法: 会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。
 賞の授与: 2013 年度国際漁業学会大会の際に行う総会にて授与します。受賞候補者には事前
 にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

3. 2012 年度 JIFRS YAMAMOTO PRIZE の選考過程と 受賞者について

山下東子 (学会賞選考委員長)

故山本忠先生のご寄付により授与される JIFRS YAMAMOTO PRIZE は隔年で開催される IIFET 大会の参加者予定者のうち、開発途上国を母国とする研究者を授与の対象としています。大会に先立ち IIFET 事務局を通じて論文を募集し、応募論文のうち最も優秀な 2 本を JIFRS の学会賞選考委員が選考します。受賞者には IIFET 大会において賞状と副賞としての US\$1500 が授与されるとともに、2012 年大会においては JIFRS=JICA セッションにおいて研究発表をする機会が与えられました。

応募締切日である 3 月 31 日までに IIFET 事務局に提出された応募論文は 1 編のみでした。論文の形式、内容は賞を授与するに足る水準に達していたため、この論文に山本賞を授与することと決定しました。IIFET 大会で授与される他の賞についても応募が少なかったため、後日、論文の再募集をすることになりました。JIFRS も再募集に便乗することとし、残り 1 本の論文を選考するための締切を他の賞と同じ 5 月 1 日に設定しました。

再募集に対しては 9 本の論文応募がありました。このうち論文の要件を満たしておりかつ締切期日を大幅に過ぎていない 7 本の論文を選考対象とし、学会賞選考委員がそれぞれ順位付けをしました。総合的に最も順位が高かった 1 本に山本賞を授与することを決定しました。応募者の母国は、カメルーン、エリトリア、インド、コートジボアール、南アフリカ共和国、ベトナム、およびタンザニアでした。

受賞者は次の 2 名です。

氏名	母国	論文タイトル	論文概要
Dr. Thanh Viet Nguyen	ベトナム	THE SUSTAINABLE MANAGEMENT OF THE SHRIMP TRAWL FISHERY IN TONKIN GULF, VIETNAM	ベトナムのトンキン湾におけるエビ・トロール漁業の生産者余剰を Verhulst-Schaefer と Gompertz-Fox の余剰生産モデルを用いて計測した。MSY レベルに達するには漁獲努力量を 12~44%、MEY レベルに達するには 46~61% 減じなければならない。

Ms. Lilian Ibengwe	タン ザニ ア	REDUCING POST-HARVEST LOSSES OF THE ARTISANAL DAGAA, (Rastrineobola argentea) FISHERY IN LAKE VICTORIA TANZANIA: ACOST AND BENEFIT ANALYSIS.	ビクトリア湖での Dagga 漁における漁獲後の廃棄率は 59%にも達する。砂上での露天干しをやめ、可動式の網棚を自作してその上で干すことは現実的な解決策であり、漁業収入の上昇にもつながる。
-----------------------	---------------	--	---

ベトナムの Dr. Nguyen は米国で学位取得の後、米国の大学で研究を継続中です。Ms. Ibengwe はタンザニアの水産局に勤務しながら社会人大学院生として学位取得を目指しています。両名とも山本賞の受賞を非常に喜んでいました。授賞式が行われたバンケットには娘の晴れ姿を一目見ようと Ibengwe 氏のお父さんもかけつけていました。眼科医であるお父さんは 1960 年代に日本で医学研修を受けたということで、Ibengwe ファミリーにとっては日本との縁がまた深まりました。

学会賞選考委員（国際賞担当）は牧野光琢、松田恵明、八木信行、山下東子でした。

4. 小規模漁業に関する FAO ワークショップに出席して

八木信行（東京大学大学院農学生命科学研究科）

2013年3月18-20日、ローマのFAOにて開催された標記のワークショップに出席する機会を得ましたので、その概略などを報告します。英語名は、「FAO workshop “Strengthening organizations and collective action in fisheries: a way forward in implementing the international Guidelines for Securing Sustainable Small-scale Fisheries”」です。

このワークショップは、主に各国の大学研究者などが15名程度と、FAO事務局から10名程度が参加する小さな会合でした。日本人の出席者は、FAO事務局の諸貫秀樹さん（水産庁からの出向者）と、私の2人でした。

FAO水産委員会は2年に1回、各国の代表団を集めて開催されます。ここでは小規模漁業に関する議論が2003年頃からなされており、2008年はバンコクで小規模漁業に関する会合を開催しています。更には2012年2月にFAOが開催したワークショップで「Guidelines for Securing Sustainable Small-scale Fisheries (以下ガイドラインと呼ぶ)」の原案を作成しました。しかしながら、ワークショップで議論が進んでも、FAO水産委員会は2年に1度ですから議論は遅く、ガイドラインは未だにFAO水産委員会で採択されていない状況にあります。

FAO事務局では、世界の小規模漁業に対する学術研究等を更に進めたいと考えているようです。FAO事務局は、小規模漁業は、多くの場合、経済効率が劣る産業セクターであるなど

の理由から各国の政府から厄介者扱いを受け、周辺に追いやられている (marginalize) が、社会面では重要な役割を有していると見ているようです。

今回ワークショップはでは、具体的には、以下のような議論がありました。

- 漁協 (fishery cooperative) は各国で定義が異なっている。日本とメキシコは比較的似通っており、双方とも漁業権漁業 (territorial use-rights fishery) の管理を行っている。
- 一方でノルウェーでは、漁協は漁業管理はしておらず、販売組織として機能している。加工業との連携も業務に入っている。漁業管理の場合は、管轄する範囲が広がるほど困難が増す。一方、販売業務の場合は小規模の漁協では十分機能せず、必然的に広範囲をカバーする方が成功しやすい。漁協を統廃合する際も、目的を特化させる方が組織のまとまりはよくなる。
- 漁協と株式会社の違いは内部の利益配分ポリシーの差であろう。会社組織は、株主への配当や、再投資があるが、漁協では組合員への公平な配分が優先される。また株式会社は問題解決型になる傾向があるが、漁協は存在していて空白を埋めるという価値が存在する。また、漁協の場合は短期のバランスシートだけでなく、長期の目的達成に資することがやりやすい。
- 女性の地位向上は世界的に重要な課題。例えば漁協が保育園を併設することで、女性の地位向上に貢献できる。
- 環境保全のため森川海を連関して管理する発想は重要。日本や、インドネシアのアチェではそのような取り組みがなされている。
- 途上国の水産部関する統計取得を奨励すべきである。そのような統計がない場合、他産業との調整問題 (灌漑やダム建設、沿岸開発) が生じる際に、適切な保証を得られないばかりか、交渉の場にも呼んでもらえず、漁業者が更に marginalize されてしまう。

以上のとおり、今回は、小規模漁業問題について実質的な議論を行う場が作れたという面では意義は存在しましたが、ガイドラインの採択等に関する前進を示すものではなかったといえるでしょう。

なお、その他、2013年3月21日、ほぼ同じメンバーで GIAHS (Globally Important Agricultural Heritage System: 世界農業遺産) の水産版に関する会合が FAO の主催で開催されました。現在 GIAHS に水産の要素は存在しませんが、将来的に水産の応募を受け付けるために、クライテリアを見直すまたは注意書きをつける必要性について議論をしたものです。

現在のクライテリアは、Food and livelihood security; Biodiversity and ecosystem function; Knowledge system and adapted technologies; Cultures, value systems and social organizations; Remarkable landscapes, land and water resources management features となっています。

結論として、クライテリアを大きく修正する必要はないとの議論に収斂したものの、水産の特殊性 (農業は土地の所有権が確立しているが、水産物は無主物が各国の海域を行き来している場合もある点) をよく考慮すべきとの議論がなされました。

4. 事務局便り

多田 稔 (近畿大学)

- 1) J I F R S が日本学術会議の協力学術研究団体に登録されました。
- 2) I I F E T 2014 が 2014 年 7 月第 1 or 第 2 週にオーストラリアのブリスベーン and/or ゴールドコーストで開催されます。通常の regular な abstract の受付は 2013 年 12 月～2014 年 1 月の予定です。

短信の作成が遅れたため、今年度の学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼が非常にショート・ノーティスになってしまいました。お詫び申し上げます。